防災だより その52

防災専門官　野田（のだ）　秀敏（ひでとし）

ペットの避難と防災対策

ペットの避難には、「同行避難」と「同伴避難」の二つがあります。

■同行避難とは

災害時に、飼い主とペットが同行し、安全な避難所まで避難すること（ペットは避難所の指定場所に預ける）。

■同伴避難とは

災害時に、飼い主とペットが同伴し、避難所でも一緒の空間で過ごすこと（同伴避難に対応した施設があることが条件）。

本市では、同伴避難に対応した避難所がないため、**「同行避難」**を推奨しています。

また、大型動物・危険動物、蛇など爬虫類の同行・同伴は禁止になっています。

■ペットの防災対策

災害は、〝突然〟起こります。

いざという時、ペットを守ることができるのは飼い主だけです。飼い主とペットが安全に避難でき、周りの避難者に迷惑をかけずに安心して過ごすためには、日頃からの心構えと備えが大切です。

①住まいの防災

・住まいの耐震強度の確認
・家具の転倒・落下防止対策
・飼育ケージを固定し、転倒を防止。屋外飼育の場合は、ブロック塀、ガラス窓の近くは避ける
・ケージなどペットの避難場所の確保

②健康管理としつけ

・予防接種や外部寄生虫の駆除
・ブラッシングで抜け毛をとる
・キャリーバッグやケージに慣らしておく
・待て、お座り、伏せや排せつが、決められた場所でできる

③家族の中での情報共有と近所の連携

・家族間の連絡方法や集合場所を決めておく
・ペットの避難方法や家族の役割分担を決めておく
・留守中の対処方法と協力体制を話し合っておく
・緊急時のペットの預け先を確保しておく

④所有明示の徹底

・鑑札、狂犬病予防接種注射済票（犬の場合）の表示
・外から見える迷子札（鳥は足環）の取り付け
・外れる心配のない身元証明マイクロチップの使用

⑤情報収集と避難訓練

・避難場所までの経路と所要時間を確認
・危険な場所や予備の経路を確認
・動物が苦手な人への配慮
・自治会の避難訓練に参加

⑥人と動物の安全確保と同行避難

・情報を集め避難場所への避難が、必要か否か判断する
・犬はリードや胴輪をつける（緩みがないか確認）
・猫や小型犬は、ケージ、キャリーバッグに入れて避難

⑦ペットのための備蓄品

・必要な療法食、薬を備蓄
・5日分以上のフード、水、食器
・予備の首輪、リード
・ペットシーツ、トイレ、洗濯用品、おもちゃ、匂いのついたタオル、ブランケット

■災害後、ペットと過ごす注意点

①避難所で生活

避難所の中には動物アレルギーの人もいるので、避難所では人とペットが別の場所で生活し、ペットの世話は飼い主が自ら行うことが原則です。周りに配慮し、飼育スペースや排泄物の処理などルールを守りましょう。

②自宅で生活

自宅が安全なら、住み慣れた自宅の方がペットも安心できます。ただし、救援物資と情報は避難所に集まるので必要に応じて取りに行くようにしましょう。

ペットが自宅で生活できる状況なら、避難所から自宅に通う方法もあります。

③車中で生活

車中は、周りに気を使わず過ごせますが、狭い空間で飼い主がエコノミークラス症候群にならないよう、定期的に車外に出て動いたり、水分を小まめに取ったりしましょう。

④施設に預ける

避難所に入れない場合や飼い主の事情、ペットの健康状態などにより、市の収容施設、動物病院、動物保護団体などに預かってもらう場合があります。

避難所での対応は災害の程度、施設の規模、被災者数などによりさまざまです。しかし、ペットを理由に避難しないことは、自分の身の安全を脅かすことになりますので、前述を参考に避難について考えてください。